

短期予報解説資料 2024年9月14日03時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

① 台風第13号が日本の南を北西進。南西諸島では、上空寒気や台風周辺の下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となっており、対流雲が発達して雷を伴った激しい雨を解析。

② アムール川上流の500hPa5700m付近には-12℃以下の寒気を伴ったトラフがあって東進。

③ 500hPa5820～5880m付近の正渦度に対応して、前線が黄海から日本海を通過して日本の東にのびている。西日本～北日本では、前線に向かって高気圧

の縁を回る下層暖湿気が流入、13日21時の松江の高層観測では850hPa θ e355Kを観測。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 台風第13号は発達しながら日本の南を北西進、次第に暴風域を伴って14日夜にかけて南西諸島に接近、通過していく。台風に伴って、南西諸島では15日にかけて非常に強い風が吹いて大しけとなり、奄美地方では14日は猛烈な風が吹く所がある。また、南西諸島では14日は、台風本体の雨雲や台風周辺の下層暖湿気が流入して大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。南西諸島は、14日は暴風に厳重に警戒し、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒。落雷や竜巻などの激しい突風にも注意。また、15日にかけて高波に警戒。

② 1項②のトラフは、14日夜に沿海州付近に進み、北海道地方を通過して15日夜にかけて千島近海に進む。トラフの東進に伴って、14日朝までに1項③の前線上の日本海で低気圧が発生。低気圧は次第にトラフとの対応が良くなるため、前線を伴って発達しながら日本海を東北東進して15日朝にかけて北日本を通過、15日夜には千島の東に進んで前線が北日本～東日本を南下していく。西日本～北日本では15日にかけて、低気圧や前線に向かって850hPa θ e345K以上の下層暖湿気が流入、日中の昇温の影響も加わって大気の状態が非常に不安定となり、特に前線が南下する15日は東日本や北日本では局地的に雷を伴った非常に激しい雨が降る所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。なお、九州や四国の太平洋側の南～南東斜面を中心に15日にかけて、台風周辺や太平洋高気圧の縁を回る暖かく湿った南東風が長時間吹き付けるため、断続的に激しい雨が降り、局地的に総雨量が多くなるので留意。

③ 西日本～東日本では15日にかけて、台風によるうねりの影響で波が高くなり、しける所がある。また、北日本は15日にかけて、2項②の低気圧の影響で風が強くと吹く所がある。強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

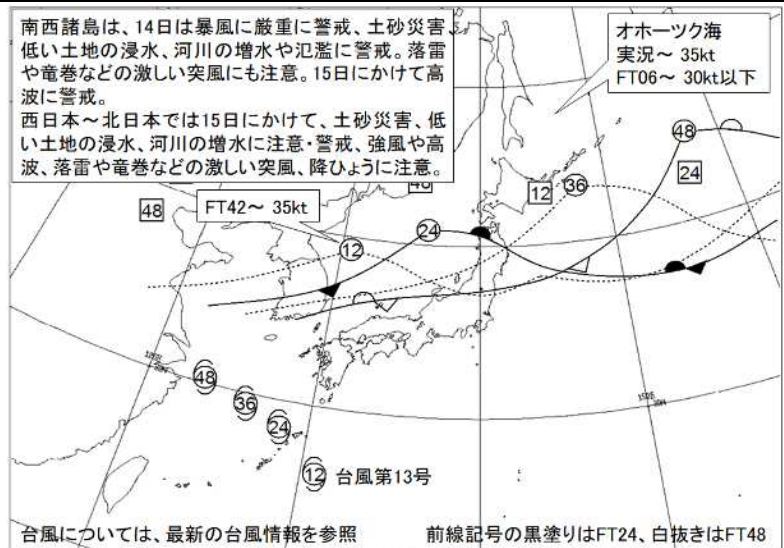
総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

①雨量(06時からの24時間)：四国・九州南部・奄美150、九州北部120、東海・沖縄100mm。②波浪(明日まで)：奄美8、九州南部7、沖縄6、四国・九州北部4、伊豆諸島・東海・近畿3m。③高潮(明日まで)：大潮期間。西～東日本で注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

「台風第13号に関する情報(総合情報)」を5時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図